

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保健医療サービス Theory of Health Care Services		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格指定科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家試験受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家試験受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹仁美	講義棟3階	木・金（授業時間と学生相談時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助活動において必要となる医療保険制度や診療報酬制度、保健医療サービスに関する政策等について知識を習得する。保険医療サービスにおける各専門職の役割を理解し、相談援助の有用性を活かす他職種との連携・協働について考察する。				
授業の目標				
①保健医療福祉制度と医療保険制度の変遷と現状及び政策動向を理解できるようにする。②保健医療福祉の利用者にかかわる相談援助専門職として必要な視点や姿勢を明確化できるようにする。③患者・利用者の生活を視点に入れた援助の在り方について考察できるようにする。④保健医療サービスに関係する専門職及び当事者・家族といった非専門職との連携方法を考察できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行う。グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①保健医療サービスの概要を説明することができる。②保健医療福祉にかかわる専門職の役割と各専門職との連携の方法と実際を説明することができる。③患者・利用者と家族を含む地域の社会資源との連携の必要性を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 保健医療サービスとは何か 保健医療サービスの構成要素			
第2回目	戦後の保健医療サービスの整備・拡充			
第3回目	保健医療サービスの今日的課題 医療連携・チーム医療			
第4回目	医療施設の機能・類型（医療法）			
第5回目	医療施設の機能・類型（診療報酬、介護保険法） 小テスト①			
第6回目	地域包括ケアシステムと在宅医療			

第7回目	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	
第8回目	業務の内容（ミクロ）	
第9回目	業務の内容（メゾ）	小テスト②
第10回目	業務の内容（マクロ）	
第11回目	保健医療サービスの専門職の役割	
第12回目	医療保険制度と診療報酬制度	介護保険制度と介護報酬
第13回目	公費負担医療制度	保健医療専門職との連携方法 小テスト③
第14回目	チームケア実現のための制度	連携機関・団体 連携の実際
第15回目	地域の社会資源との連携と実践	
事前・事後学習	教科書の授業範囲の予習と復習	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中し、必要なことをノートにとる。グループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べるとともに、異なる意見や立場に配慮する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	正誤問題の小テストを実施する。
試験	50%	正誤問題と論述問題の試験を行う。論述は根拠に基づいており、的確に説明されている。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』（社会福祉士養成講座編集委員会）		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験 職種：臨床心理士（心理判定員）、職歴：通算25年 社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目。授業内容に関連ある情報に目を向け、自ら視野を広げる努力をすることを期待する。		